

株式会社インテリジェント ウェーブ

第37期 事業のご報告

2019.7.1 ▶ 2020.6.30

株主通信 VOL.39



代表取締役会長 **井関 司**

2020年6月期の振り返り

当期は、インターネットを活用した非対面取引の強化を進めているカード会社を中心に、システム増強や機能強化、BCP対策などに関連する開発案件が堅調に推移しました。また、クレジットカード加盟店契約業務システム「IOASIS（アイオアシス）」をはじめとしたクラウドサービスの売上高が伸長し、同サー

ビスの収益が大幅に改善したほか、既存顧客のシステム更改に伴うハードウェアの販売が増加しました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響については、営業活動は一部停滞したものの、開発業務への影響は限定的でした。

結果として、売上高については3期連続の100億円超を達成することができました。営業利益についても14年ぶりに10億円を超え、社長就任5年目にして最高の成果を残すことができました。

事業規模の拡大に向けた取組み

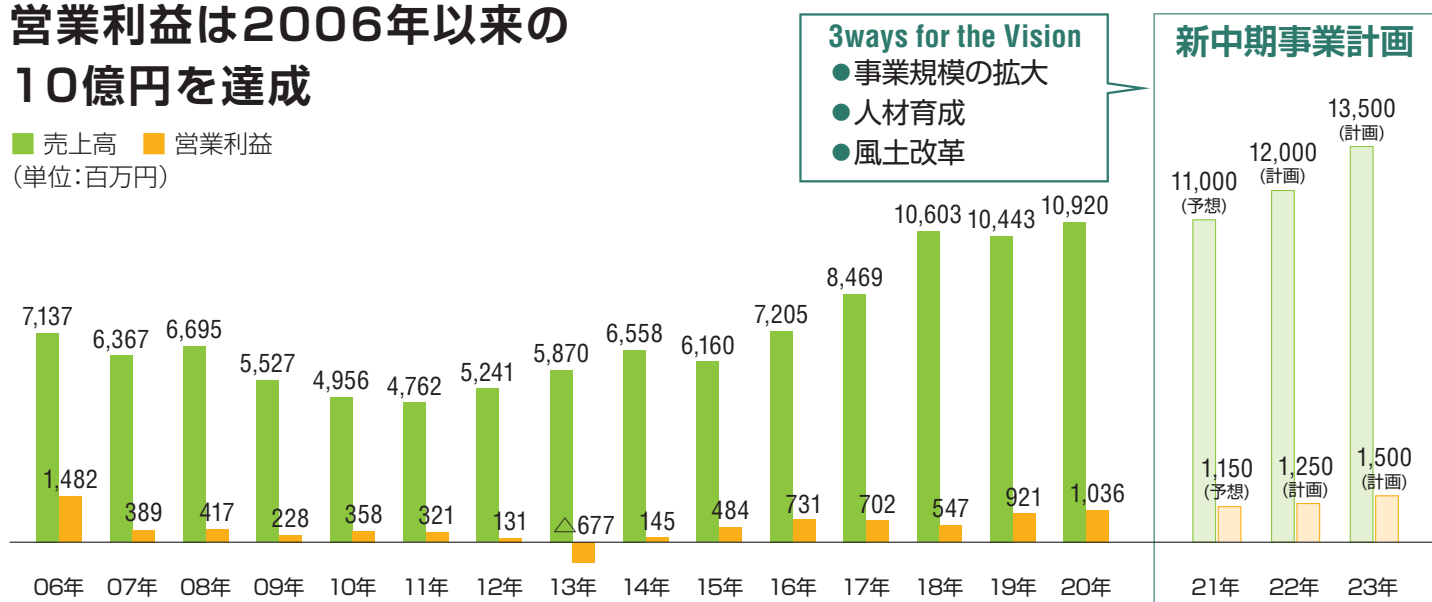
当社は、決済ネットワークにおけるゲートウェイシステムの専門会社として、現在は国内で確固たる地位を築いていますが、今後、まったく新しいネットワークや多種多様な決済方式が台頭し、当社を取り巻く事業環境も5年後には様変わりしているかもしれません。私は、好業績を残している今だからこそ、事業環境の変化に対応するための準備を進めておくことが重要であると考えています。この考えのもと、これまで一定の成果を上げてきた従来の事業計画の一部を見直し、事業規模の一層の拡大を実現するために新たな中期事業計画を策定しました。

新たな中期事業計画では、新製品、新サービスへの投資を加速するべく、これまで実施してきた取組みに加え、新

長期業績推移

営業利益は2006年以來の10億円を達成

■ 売上高 ■ 営業利益
(単位:百万円)

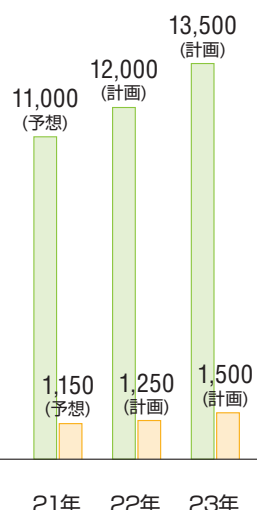


※2015年6月期まで連結業績の数値を掲載

3ways for the Vision

- 事業規模の拡大
- 人材育成
- 風土改革

新中期事業計画



たに4つのプロジェクトを重点施策として掲げています。

1つ目は、「フロントシステム共同化」です。当社の強みであるFEP (Front End Processing) 領域におけるシステム開発実績を生かし、多種多様なネットワークへの接続やカードの使用認証などの機能を搭載したフロントシステムを構築し、顧客にクラウドサービスとして共同利用していただく構想です。

2つ目は、「次世代不正検知システム」の開発です。顧客から高い信頼を得てきた当社の不正検知システムである「ACEPlus (エースプラス)」について、既存の不正検知機能をより効率化したうえで、AIを活用した新たな不正検知機能を搭載します。「フロントシステム共同化」構想とともにクラウドサービスとして提供することを検討しています。

3つ目は、「セキュリティ統合プラットフォーム」の構築です。内部情報漏えいを防ぐ当社製品やサイバーセキュリティ対策のための他社製品の機能を、共通のプラットフォームでクラウドサービスとして提供します。顧客側が自社の環境や対策の優先度に応じて、必要な時に必要な機能だけ利用できるサービスを目指します。

4つ目は、大量データを高速かつ確実に届ける技術を活用した新規プロジェクトです。放送事業者向けのソリューションである「EoM (イーオーエム)」の開発を通じて得た技術や知見をもとに、新製品や新サービスを開発し、クラウドサービスとして提供する構想です。

私は、顧客側の要求に基づいて個別にシステムを開発する受託開発の業務は今後減少していくと見ています。事業構造を転換し、売上高全体に占めるストック型ビジネスの割合を拡大することで、持続的な成長を実現したいと考えています。

経営基盤の強化

中期事業計画では人材育成も重視しています。業務遂行力、ITリテラシー、人間力を3本柱とした階層別の研修制度に加え、30代を中心とした社内技術者を講師とする、若手社員向けの育成プログラム「IWIカレッジ」を開始しました。IWIカレッジは、若手社員がITの基礎知識や当社固有の専門知識を技術とともに身に

つけ、主体的に行動できる人材へと成長させることを目的としています。スタートから半年が経過しましたが、若手社員だけでなく、講師である社内技術者も熱心に取り組んでおり、人材育成の目途が立ったと考えています。

働きやすさ、働きがい醸成する風土改革も進んでいます。働きやすさについては、全社の年次有給休暇の取得率が着実に上昇しているほか、育児休暇の取得率も男女ともに全国平均を上回っています。働きがいについては、時代に合わなくなってきた人事評価制度を12年ぶりに刷新したほか、会社への貢献度に応じて報奨金を支給するプロジェクト表彰やビジネスアイデアコンテストの実施など、社員のエンゲージメント向上のための施策を強化しています。

また、取締役会の機能およびガバナンス体制の強化を目的に、諮問委員会である指名・報酬委員会を4月に設置するとともに、取締役会の構成を見直し、新たに執行役員制度を導入しました。

株主の皆さまへのメッセージ

好業績の結果は、社員には賞与、株主の皆さまには配当で還元することを指向しており、2020年6月期末は前期から1円増配し、1株あたり10円の配当とさせていただきます。

前述のとおり、2020年6月期は私が社長に就任以来、最高の業績を実現することができました。過去5年間をファーストステージとした場合、2021年6月期からは、当社の今後の成長を形づくるセカンドステージになると考えています。今回の株主総会をもって私は代表取締役会長に就任しました。新たに代表取締役社長に就任した佐藤と協働し、このセカンドステージにおいてさらなる飛躍を目指します。中長期的には売上高150億円、営業利益率15%を達成できる会社づくりを進めていきます。

株主の皆さまにおかれましては、次世代を見据えた攻めの取組みとさらなる成長にご期待いただきますとともに、引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長

さとう くにみつ

佐藤 邦光 (1959年12月生まれ)

1983年4月 大日本印刷株式会社 (DNP) 入社
2018年4月 DNP情報イノベーション事業部C&Iセンター長
2019年9月 当社取締役
2020年4月 DNP情報イノベーション事業部副事業部長
2020年9月 当社代表取締役社長 (現任)



● これまでの経歴について

1983年にDNPに入社後、システム開発業務に従事してきました。2000年代に入り、当時はまだ目新しかったICカードを活用した新規事業の立ち上げに取り組みました。私は、携帯電話を利用したモバイル決済システムや、金融機関におけるICカードの即時発行などの事業を手掛けることで、新しい社会インフラの整備に邁進してきました。

その後、DNPがICカード関連の事業で培った知見をもとに決済関連サービスへと事業領域を拡大するなかで、私は決済領域における新たな事業分野の開拓に注力しました。当社には、新規事業の立ち上げ時に大きな支援を受けましたが、その際、当社の技術力の高さを実感した次第です。

● 次なる成長に向けて

当社には、「常に挑戦」するベンチャースピリットが創業以来脈々と受け継がれています。そのマインドのもと、特殊性や専門性が強く求められる決済領域および情報セキュリティ領域において、高い品質を担保する技術力に磨きをかけながら市場シェアを拡大し、安定的に成長を遂げてきました。

当社では現在、5年後、10年後を見据えた土台づくりを進めています。既存ビジネスの安定的な拡大

に加え、クラウドサービスに代表される新製品、新サービスの開発を強化しています。

こうしたなかで、私自身の役割は、当社とDNPとの間でよりシナジーを発揮できる新たな領域を模索するとともに、様々な新規事業に取り組んできた過去の経験を当社内に還元し、新規事業の成功に貢献することであると認識しています。

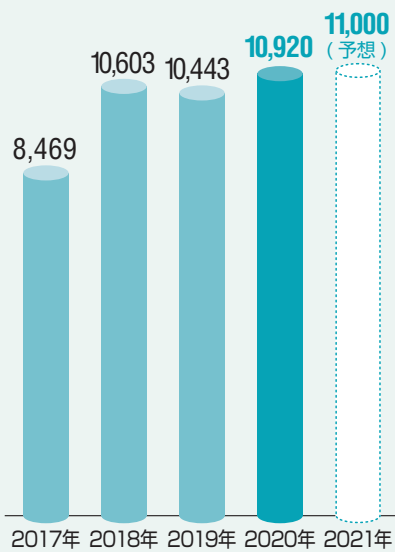
その役割を果たすためには、①クラウドサービスの事業基盤の強化、②AIのさらなる活用、③アジャイル的な開発手法、これらを当社内で推進していくことが必要であると考えています。加えて、当社の強みである技術力をより一層高めつつ、新しいことを発想できる人材を生み出す企業風土を作り上げることも大切です。若手社員が意欲的に活躍できる環境も整いつつあり、今まさに、次なる成長に向けた新たなチャレンジの時期がきていると感じています。

● 株主の皆さまへ

新たな挑戦が加速するタイミングで代表取締役社長を拝命し、株主の皆さまには深く御礼申し上げます。当社の社長に就任することは、私自身としても大きな挑戦ですが、新しいことに挑戦し続けるなかで直面する失敗体験も生かしながら、持続的に成長できる会社づくりを進めていきます。株主の皆さまには、ご期待、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

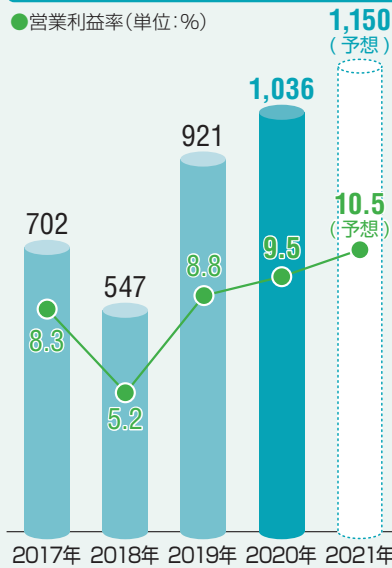
決算ハイライト (単位：百万円)

売上高

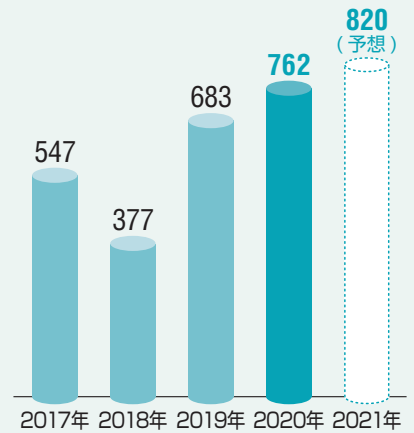


営業利益/営業利益率

● 営業利益率 (単位：%)

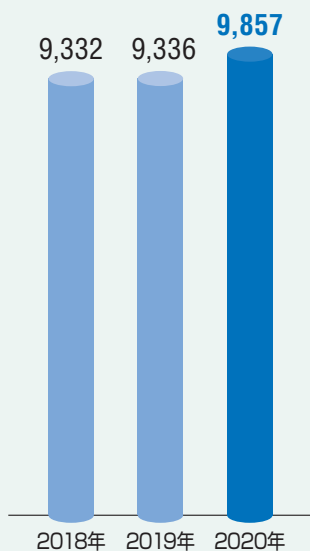


当期純利益

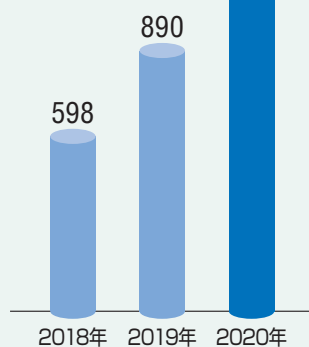


金融システムソリューション事業

売上高

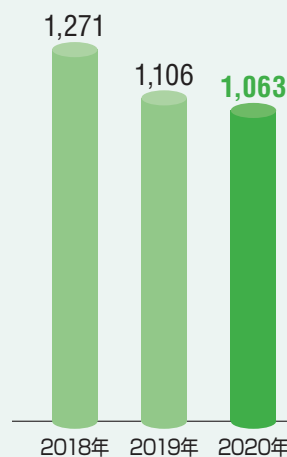


営業利益

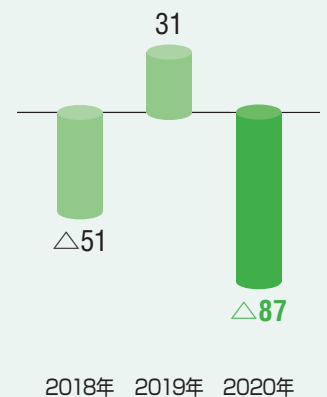


プロダクトソリューション事業

売上高

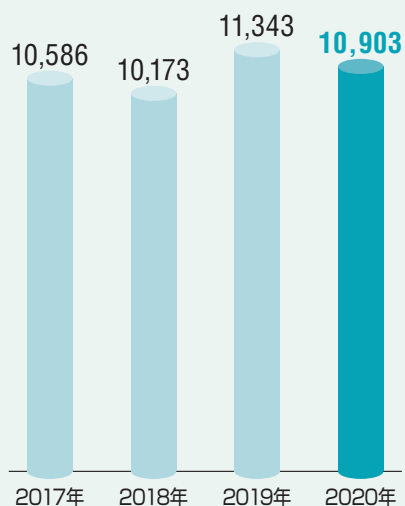


営業利益

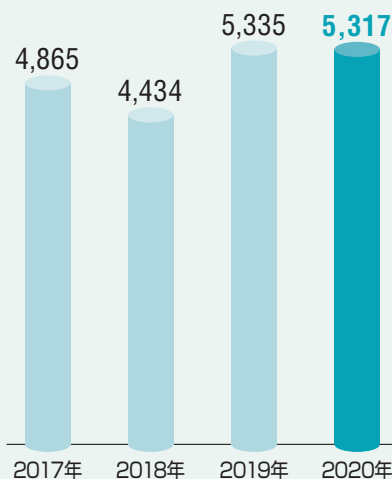


※2021年6月期(第38期)より、単一の事業セグメントとなるため、セグメントごとの予想値は掲載しておりません。

受注高

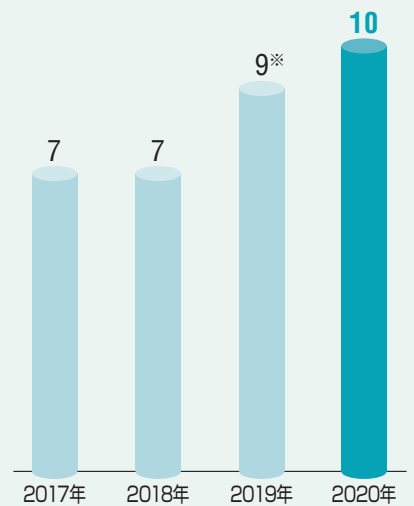


受注残高



配当金

(単位：円)



※東京証券取引所市場第一部への指定を記念した記念配当金1円を含む

貸借対照表

	2019年6月期 期末	2020年6月期 期末
流動資産	6,054	6,381
固定資産	3,977	4,170
資産合計	10,032	10,552
流動負債	3,058	2,950
固定負債	601	617
負債合計	3,659	3,568
純資産	6,372	6,983
負債純資産合計	10,032	10,552

損益計算書

	2019年 6月期	2020年 6月期
売上高	10,443	10,920
売上原価	7,636	7,940
売上総利益	2,806	2,980
販売費及び一般管理費	1,885	1,944
営業利益	921	1,036
経常利益	953	1,074
税引前当期純利益	953	1,074
当期純利益	683	762

キャッシュ・フロー計算書

	2019年 6月期	2020年 6月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,237	1,547
投資活動によるキャッシュ・フロー	△601	△752
財務活動によるキャッシュ・フロー	△219	△407
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額	415	386
現金及び現金同等物の期首残高	2,839	3,254
現金及び現金同等物の期末残高	3,254	3,641

会社概要

設 立 年 月 1984年12月
 資 本 金 8億4,375万円
 従 業 員 数 435名
 ウェブサイト <https://www.iwi.co.jp>

取締役及び監査役 (2020年9月25日現在)

代表取締役会長 井関 司 常 勤 監 査 役 白杉 政晴
 代表取締役社長 佐藤 邦光 監 査 役 加藤 嘉則
 取締役専務執行役員 大山 景司 監 査 役 佐藤 宏
 取締役執行役員 後藤 泰佐 監 査 役 竹林 昇
 取 締 役 渡部 晃 監 査 役 堀江 正之
 取 締 役 三木 健一

株式の状況

発行済株式の総数 26,340,000株
 株 主 総 数 10,738名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大日本印刷株式会社	13,330,700	50.61
安達 一彦	2,382,900	9.05
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC)	857,924	3.26
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (信託口)	549,600	2.09
インテリジェント ウェイブ 従業員持株会	512,300	1.94

株主メモ

事 業 年 度 毎年7月1日から翌年6月30日まで

定 時 株 主 総 会 毎年9月

期末配当の基準日 6月30日

株主名簿管理 人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
 事 務 取 扱 場 所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

電子公告により行います。
 (<https://www.iwi.co.jp>)

公 告 方 法 但し、事故その他やむを得ない事由によって
 電子公告による公告をすることができない場
 合は、日本経済新聞に掲載いたします。